

2 / 6日、7日、10日、11日、13日、14日、20日、21日、22日、23日、27日、28日

2月になりました！各地の寺社の節分行事は控えめだったようですが、おうちで豆まきや恵方巻きのイベントをおこないましたか？今年の節分は2月2日♪

2月はカレンダー上28日までという短い日数のうち、12日が天体観測ドーム開放日となっています。チャンスが多いので、ぜひ遊びにきてくださいね。



コンパルホール

星空通信

2021年2月号



今月の星空みどころ

暗くなつてすぐの時間は冬の星座たち、夜が更けると春の星たちが夜空に現れます。注目は2月13日頃の細い月。また2月18日には月が火星に接近します。さらに今月は、見るチャンスが少ないりゅうこつ座の1等星・カノーパスを見ることができるかも？短い時間だけ南の低空に現れます♪中国では「南極老人星」や「寿星」と呼び、縁起がよい星。見ると長生きできるそうですよ。

今年の節分は2月2日♪

今年の節分は、124年ぶりに2/2でした。ニュースでもさかんに取り上げられていたので、みなさんもそれにならって2月2日に豆を撒いたり恵方巻を食べたりしたのではないのでしょうかm(☆▼☆)m

いつも2/3だった節分が今年2/2になった理由は「暦」がずれたから…？と、ふ〜んわり分かった気持ちになってましたが、、、星の運行を扱うこの星空通信にも大いに関係するところですので、あらためてここで解説してみましょう♪

「節分」はもともと1年を4つの季節に分けるフシ目。そして節分の翌日がそれぞれ「立春」「立夏」「立秋」「立冬」です。そのタイミングは日付ではなく、太陽と地球の位置関係によって決まっています。立春なら「黄経315度のところに太陽が来る日」というように。

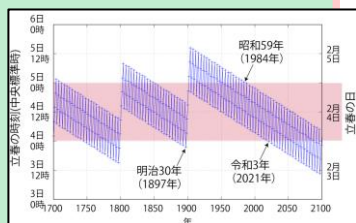
ところで実は「地球が太陽の周りを1周するのはちょうど1年(=365日)」と考えられていますが、じっさいは365日プラス6時間弱かかります。そのため、1年365日の暦(カレンダー)どおりに時をカウントし続けると地球の公転周期と暦にズレが生じてしまい、4年間でほぼ1日分、地球が公転するのに暦が足りなくなってしまう。そしてこれを解消する仕組みが、ご存知「うるう年」。4年に1度、1日を加算することで、地球の公転と暦のタイミングを合わせているのです。

しかしこれでは解決に至りません。4年で1日加算してみると、ほんのちよっぴり足しすぎになるのが実のところなのだそう。4年で約44分、400年経てば3日分も、暦のほうが多くなってしまいます。

そこでさらなる手立てとして、壮大なことに「うるう年を、400年で3日分カット」することにしました。基準として「1000の倍数の年はうるう年としない。」ただし、「4000の倍数にあたる年は例外としてうるう年のまま。」と決めたのです。

このため「西暦2000年はうるう年」。1901年から2100年まで2000年間においては「うるう年カット」がなく、4年で44分ずつ、暦と公転周期のズレがすすんでいきます。そのため、地球と太陽が同じ位置関係で現れる日にちもより広い範囲で推移することにより、立春の日もズレやすいと言われているようです。立春の時刻は、年々刻々と変化しています。下記のグラフを見ればそのことがよくわかりますね。

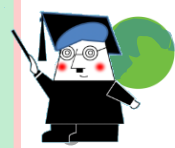
国立天文台が示す「暦要項」では今年の立春の時刻は…ナント2/3の23時59分でした！あと1分だけ立春が遅かったら日付が変わり、節分は2/3。こんなに大騒ぎすることもなかったのですね。(どうにもならない話ですが。) また、こんな話を聞くと今私が過ごしている日常のカレンダーは、太陽と地球の壮大な対比と無関係ではなかったんだ…と奇妙な感動を覚えて不思議にもなります。こんなことも、天体に興味をもつ醍醐味でしょうか。



国立天文台暦計算室資料「立春の推移」

屋上・天体観測ドーム

東経131度36分50秒、北緯33度13分55秒に位置するコンパルホール。屋上(7階)には、直径5メートルの電動回転式ドームがあります。最大倍率約275倍のニュートン式300ミリメートル反射式望遠鏡を1台、さらに、100ミリメートル屈折式望遠鏡4台を備えています。観望時には指導員が星空の解説をおこない、望遠鏡の操作説明もします。大分の街中に、ふらりと星を見にいちゃいませんか？



今月の惑星情報

● 今月の惑星の動きをみてみましょう♪

● **水星**は、上旬は日の入り後の西の低空、8日以降は日の出前の東の低空に位置しています。**金星**は見かけの位置が太陽に近く、観察は難しいでしょう。**火星**は宵の南西から西の空に見え、明るさはマイナス0.4等から0.9等となります。**木星**は見かけの位置が太陽に近く、観察には適していません。**土星**も同様、見かけの位置が太陽に近く観察には適さないでしょう。

★曇天時のお問い合わせ★

097-538-3700 (コンパルホール)

